



2015年度第1四半期 決算説明資料

2015年7月31日

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



2015年度第1四半期決算の概要について説明します。

I. 2015年度第1四半期決算実績

・サマリー	3
・セグメント別内訳	4
・貸借対照表	5
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	6
・受注高・受注残高	7
・売上高	8
・営業利益	9

II. 2015年度業績見通し

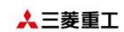
・業績見通しサマリー	11
・セグメント別内訳	12

III. 補足資料

補足資料	14-19
------	-------

I . 2015年度第1四半期決算実績

第1四半期決算実績 サマリー



(単位: 億円)

	'14-1Q (利益率)	'15-1Q (利益率)	増減 (増減率)
受 注 高	8,171	8,218	+46 (+ 0.6%)
売 上 高	8,597	9,314	+717 (+ 8.3%)
営 業 利 益	(6.5%) 560	(6.3%) 588	+28 (+ 5.0%)
経 常 利 益	(5.8%) 500	(6.6%) 616	+115 (+ 23.1%)
特 別 損 益	-	△ 18	△ 18 -
純 利 益 (※)	(2.6%) 225	(3.8%) 355	+129 (+ 57.7%)
EBITDA	(11.1%) 953	(10.6%) 990	+37 (+ 3.9%)

'15-1Q特別損益
(△18)の内訳

【特別利益】

・ 固定資産売却益 41

【特別損失】

・ 事業構造改善費用 △33
・ 投資有価証券売却損 △25

(※) '15-1Qは「親会社株主に帰属する当期純利益」

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

受注高はほぼ前年同期並みの8,218億円、売上高は前年同期から717億円増加の9,314億円となりました。

なお、前年同期には在外グループ会社の決算期変更影響が含まれておりますのでその影響を除いた実質的な比較では、受注高は前年同期から1,200億円増加、売上高は前年同期から1,800億円増加したと評価しています。

営業利益は、主に円安の効果が最も顕著に表れる交通・輸送が大きく増益となり、前年同期を上回る588億円となりました。

純利益は、前年同期から58%増の355億円となりました。

また、EBITDAも前年同期を上回る990億円となりました。

第1四半期決算実績 セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受 注 高			売 上 高			営 業 利 益		
	'14-1Q	'15-1Q	増減	'14-1Q	'15-1Q	増減	'14-1Q	'15-1Q	増減
エネルギー・環境	3,152	2,711	△ 441	3,008	3,437	+428	214	154	△ 60
交通・輸送	1,189	1,550	+360	1,147	1,457	+310	60	228	+167
防衛・宇宙	114	308	+194	823	821	△ 2	44	32	△ 12
機械・設備システム	3,590	3,509	△ 80	3,491	3,485	△ 5	235	176	△ 58
その他	375	515	+139	369	372	+3	22	31	+9
消去または共通	△ 251	△ 376	△ 125	△ 243	△ 260	△ 17	△ 16	△ 34	△ 18
合計	8,171	8,218	+46	8,597	9,314	+717	560	588	+28

第1四半期決算実績 貸借対照表



貸借対照表

(単位:億円)

	'14年度末	'15-1Q末	対前年度末 増減
売上債権	12,912	11,590	△1,322
たな卸資産	13,248	14,048	+800
その他流動資産	9,358	9,619	+260
固定資産	11,963	11,867	△95
投資等	7,720	8,253	+533
資産合計	55,203	55,379	+176
買入債務	8,692	8,071	△620
前受金	6,631	6,592	△38
その他	8,923	8,973	+49
有利子負債	9,755	10,128	+372
純資産	21,200	21,613	+413
(うち自己資本)	(17,807)	(18,204)	(+396)
負債・純資産合計	55,203	55,379	+176

受注・売上規模の拡大に伴って、主に棚卸資産が増加したことにより、総資産は前年度末に比べて176億円増加しています。

負債・純資産は、主に棚卸資産の増加を受けて有利子負債が372億円増加し、1兆128億円となりました。なお、当社においては、棚卸資産が買入債務と前受金の合計の範囲内に収まっていることを一つの目安としていますが、買入債務・前受金に対して棚卸資産が増加傾向にありますので、引き続き棚卸資産縮減に努めます。

また、自己資本が利益の積み上がりにより396億円増加し、1兆8,204億円となりました。

主要財務指標

	'14年度	'15-1Q	対前年度末 増減
自己資本比率	32.3%	32.9%	+0.6pt
有利子負債残高 (単位: 億円)	9,755	10,128	+372
D/Eレシオ	0.46	0.47	+0.01

キャッシュ・フロー

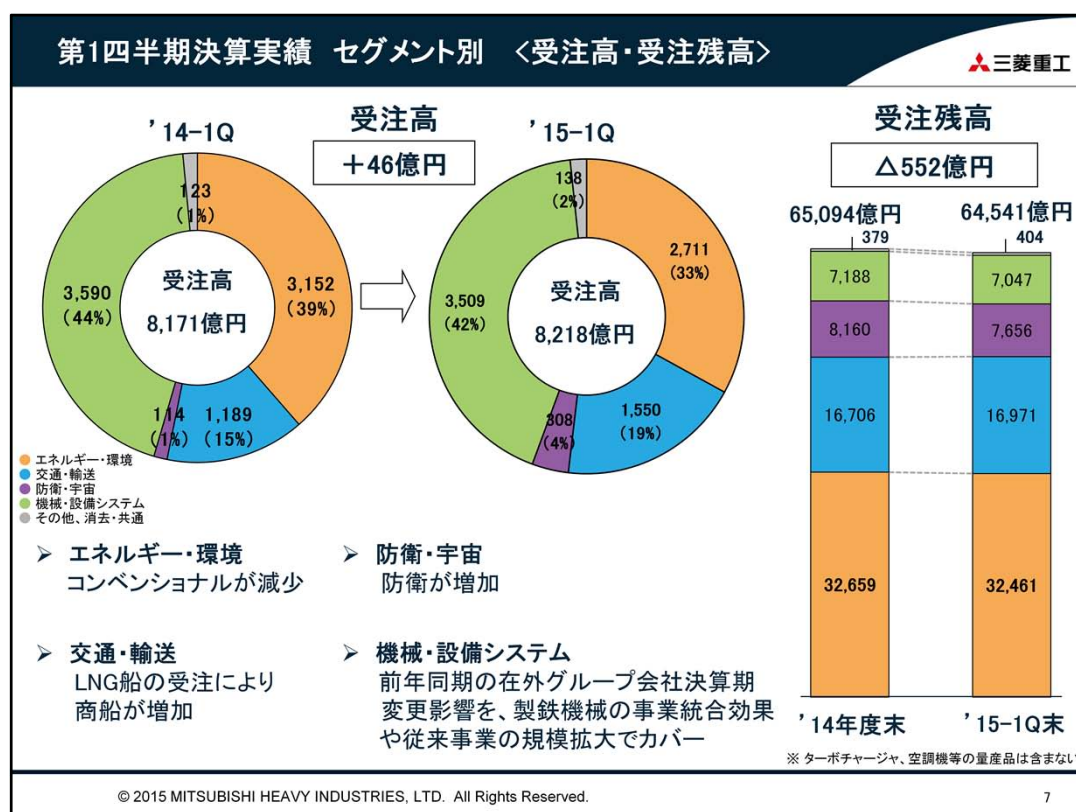
(単位: 億円)

	'14-1Q	'15-1Q	増減
営業CF	176	△ 98	△ 274
投資CF	△ 552	△ 408	+143
フリーCF	△ 376	△ 507	△ 131

自己資本比率は利益の積み上がりにより改善、D/Eレシオも前年度末と同じ水準を維持しています。

当期のフリー・キャッシュ・フローはマイナス507億円となりましたが、これは主に、MRJの開発および客船事業に伴う悪化が影響したことによるものです。

MRJについてはほぼ計画どおりですが、客船については臨時異常のキャッシュアウトであり、これについては年間を通じてバランスシートの更なる効率化に取り組み、カバーするよう努めます。



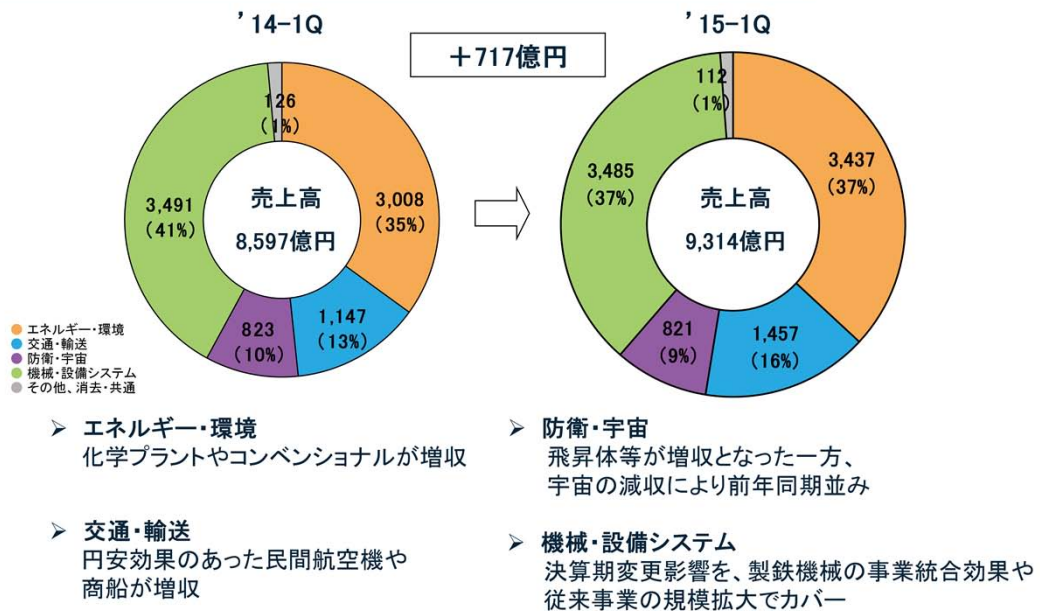
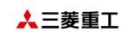
左の円グラフは受注高、右の棒グラフは受注残高を示しています。

受注高は、交通・輸送と防衛・宇宙が増加しましたが、エネルギー・環境が減少、機械・設備システムはほぼ前年同期並みとなりました。

エネルギー・環境の減少は、前年同期にプラント工事を複数案件受注した大型コンベンショナルが減少したことによるもの、交通・輸送の増加は、商船におけるLNG船の受注や民間航空機における円安効果によるものです。

右の棒グラフですが、受注残高は、前年度末から552億円減少の6兆4,541億円となりました。

第1四半期決算実績 セグメント別 <売上高>



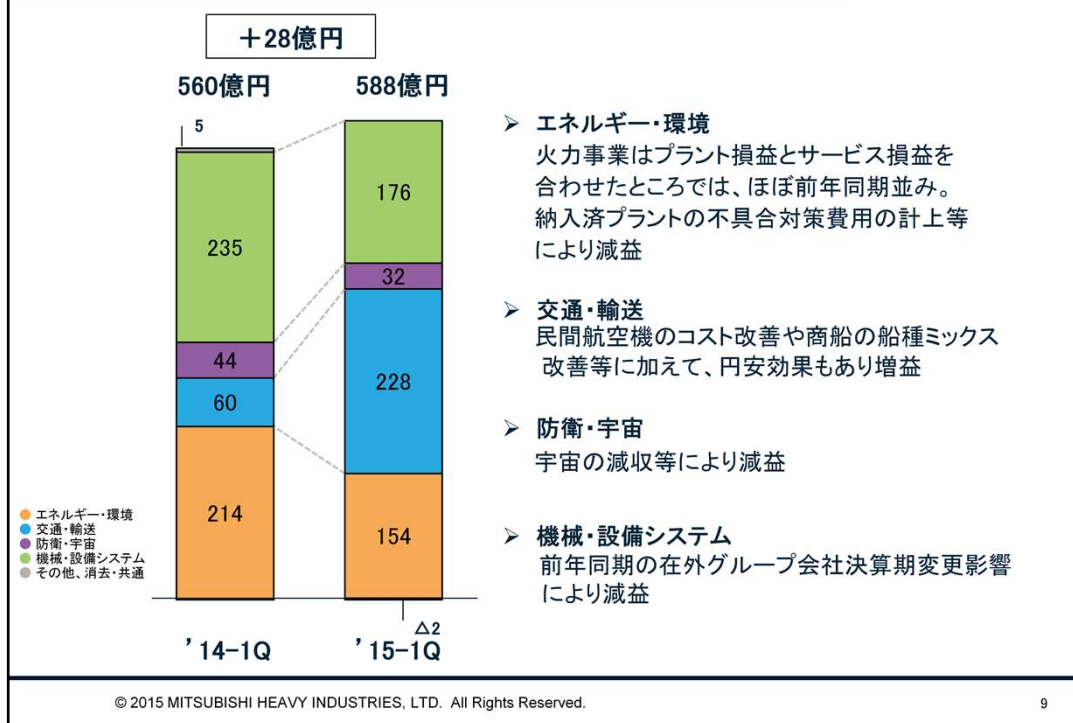
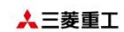
© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

8

売上高は、エネルギー・環境と交通・輸送が増収、防衛・宇宙と機械・設備システムが前年同期並みとなりました。

ドメイン別の主な増減要因はグラフの下に記載のとおりですが、エネルギー・環境は主に化学プラントやコンベンショナルの増収、交通・輸送は円安効果のあった民間航空機や商船の増収によるものです。

第1四半期決算実績 セグメント別 <営業利益>



営業利益は、エネルギー・環境、防衛・宇宙、機械・設備システムが減益でしたが、交通・輸送が円安の効果等により大きく増益となった結果、全社合計で増益となりました。

エネルギー・環境は、火力事業において、プラント損益とサービス損益を合わせたところではほぼ前年同期並みであったものの、納入済プラントの不具合対策費用の計上等により、前年同期対比で減益となりました。

なお、1Q決算実績を踏まえ、営業利益の業績見通しを150億円下方修正し、1,700億円とします。

交通・輸送は、民間航空機のコスト改善や商船の船種プロミックスの改善等に加えて、円安効果も加わり、大きく増益となりました。

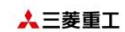
なお、1Q決算実績を踏まえ、営業利益の業績見通しを150億円上方修正し、450億円とします。

機械・設備システムは、決算期変更影響により減益となりましたが、その影響を除いたところでは、ほぼ前年並みに推移しています。

Ⅱ．2015年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えさせていただきますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2015年度業績見通し サマリー



(単位: 億円)

	'14年度実績 (利益率)	'15年度見通し (利益率)	増減 (増減率)
受 注 高	46,991	47,000	+8 (+0.0%)
売 上 高	39,921	42,000	+2,078 (+5.2%)
営業利益	(7.4%) 2,961	(7.6%) 3,200	+238 (+8.1%)
経常利益	(6.9%) 2,747	(7.1%) 3,000	+252 (+9.2%)
特別損益	△420	△500	△ 79 -
純 利 益(※)	(2.8%) 1,104	(3.1%) 1,300	+195 (+17.7%)
R O E	6.5%	7.1%	+0.6pt -
EBITDA	(11.7%) 4,650	(12.0%) 5,020	+369 (+7.9%)
フリーCF	386	前回 1,000 → 0	△ 386 -
配当 (1株あたり)	11円 (中間5円/期末6円)	12円 (中間6円/期末6円)	

(※)'15年度見通しは「親会社株主に帰属する当期純利益」

【未確定外貨】

23億ドル (期首: 30億ドル)
3億ユーロ (期首: 4 億ユーロ)

【前提為替レート】

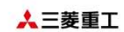
1ドル = 115円
1ユーロ = 130円

当年度の業績見通しについて説明します。

フリーキャッシュフローを除き、全社合計につきましては前回公表値からの変更はありません。

フリーキャッシュフローについては、7月31日に発表しましたユニキャリアホールディングス株式会社の株式取得影響を織込み、見通しをプラス1,000億円からゼロに見直しています。

2015年度業績見通し セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受 注 高			売 上 高			営業利益			
	'14年度 実績	'15年度 見通し	増減	'14年度 実績	'15年度 見通し	増減	'14年度 実績	'15年度 今回 見通し	15.5.8 見通し	増減
エネルギー・環境	19,236	20,000	+763	15,995	16,000	+4	1,626	1,700	1,850	+73
交通・輸送	9,992	7,000	△ 2,992	5,295	6,500	+1,204	234	450	300	+215
防衛・宇宙	4,174	4,000	△ 174	4,839	4,500	△ 339	285	270	270	△ 15
機械・設備システム	13,046	15,000	+1,953	13,195	14,000	+804	841	850	850	+8
その他	1,908	2,000	+91	1,828	2,000	+171	138	150	150	+11
消去または共通	△ 1,367	△ 1,000	+367	△ 1,233	△ 1,000	+233	△ 166	△ 220	△ 220	△ 53
合計	46,991	47,000	+8	39,921	42,000	+2,078	2,961	3,200	3,200	+238

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

12

セグメント別の営業利益については、エネルギー・環境を150億円下方修正、交通・輸送を150億円上方修正します。

以上、当期の決算を総括しますと、新しい2015事業計画の初年度の第1四半期の実績としては、細部については色々良い点・悪い点がありますが、グループ全体の評価としては、概ね順調に推移していると判断しています。
また、課題についても今後の改善活動の中で充分クリアできるものと考えています。

当社グループはグローバル企業として新たな第一歩を踏み出し、競争力の強化を目指して、事業構造の更なる改善、M&A案件のPMI推進、ガバナンス改革を含めたコーポレート改革を通じての経営の効率化・高度化を推し進め、厳しい経営環境の中にあっても、それらが経営成績につながるよう努めます。

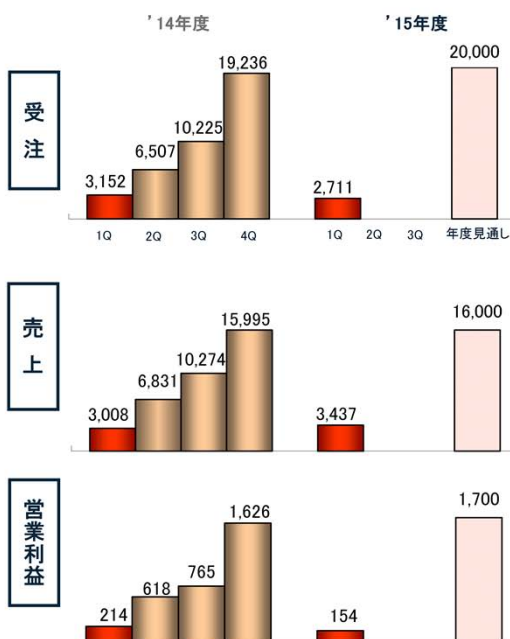
以上をもちまして、2015年度第1四半期決算の説明を終わります。

Ⅲ. 補足資料

補足資料① 第1四半期決算実績 <エネルギー・環境>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 △441億円の減少

前年同期に決算期変更や複数の新設プラントの受注があったコンベンショナルが減少したことなどにより、前年同期を下回った。

【ガスタービン受注台数】

'14-1Q : 4台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	-	-	-	-	0
中小型	-	-	-	4	4
合計	0	0	0	4	4

'15-1Q : 3台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	-	2	-	-	2
中小型	-	-	-	1	1
合計	0	2	0	1	3

【ガスタービン契約残台数】

	大型	中小型	合計
'14-1Q末	40	34	74
'14年度末	34	33	67
'15-1Q末	34	31	65

売上 : 対前年同期 +428億円の増収

化学プラントやコンベンショナル等の増収により前年同期を上回った。

損益 : 対前年同期 △60億円の減益

納入済プラントの不具合対策費用の計上等により前年同期を下回った。

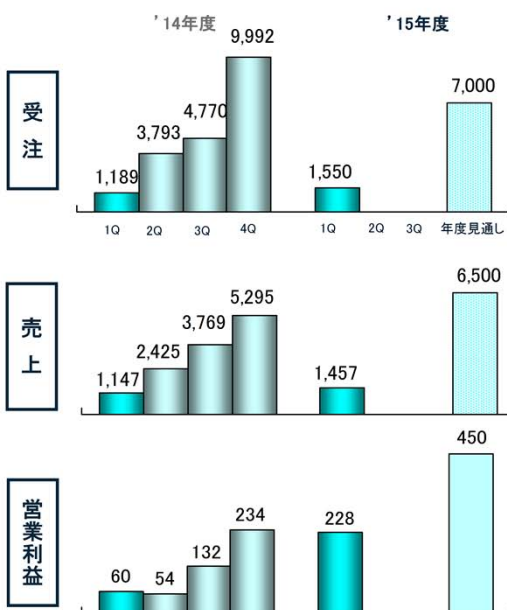
年間見通し

営業利益 : 1,850億円から1,700億円へ修正

補足資料① 第1四半期決算実績 <交通・輸送>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 +360億円の増加

LNG船の受注隻数が増加したことなどにより、前年同期を上回った。

【商船 受注隻数】

'14-1Q : 3隻 (1Q:3隻、2Q:3隻、3Q:1隻、4Q:4隻)

'15-1Q : 4隻 (1Q:4隻)

【商船 契約残隻数】 38隻

(LNG船 10隻、LPG船 7隻、フェリー/貨客船 3隻、巡視船 6隻 他)

売上 : 対前年同期 +310億円の増収

円安効果のあった民間航空機や商船を中心に増加し、前年同期を上回った。

【B777 引渡機数】

'14-1Q: 26機 (1Q:26機、2Q:24機、3Q:26機、4Q:22機)

'15-1Q: 28機 (1Q:28機)

【B787 引渡機数】

'14-1Q: 32機 (1Q:32機、2Q:28機、3Q:30機、4Q:32機)

'15-1Q: 32機 (1Q:32機)

損益 : 対前年同期 +167億円の増益

民間航空機のコスト改善や商船の船種ミックス改善等に加えて、円安効果もあり前年同期を上回った。

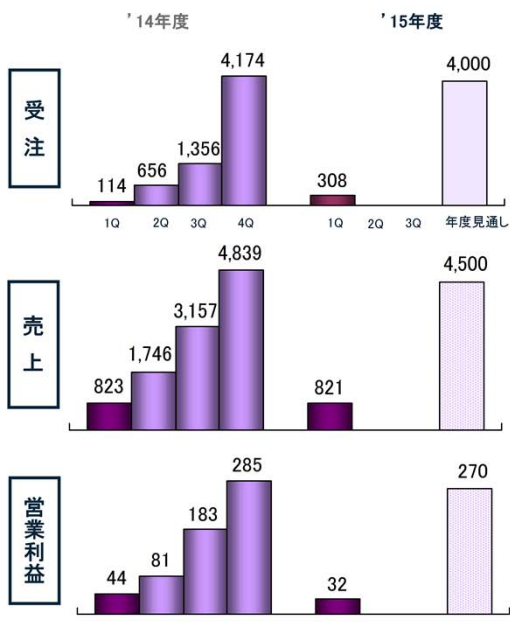
年間見通し

営業利益 : 300億円から450億円へ修正

補足資料① 第1四半期決算実績 <防衛・宇宙>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 +194億円の増加
防衛が増加し、前年同期を上回った。

売上 : 対前年同期 △2億円の減収
飛昇体等の売上が増加したものの、今期に打上げのなかった宇宙が減少し、前年同期並みとなった。

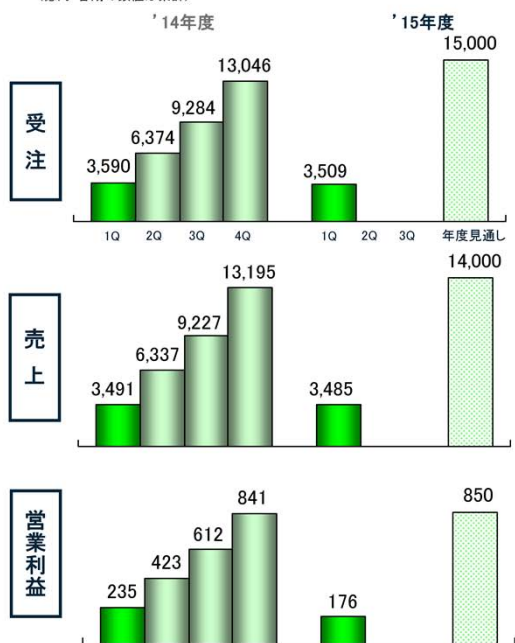
損益 : 対前年同期 △12億円の減益
宇宙の減収に伴い、前年同期を下回った。

年間見通し
変更なし

補足資料① 第1四半期決算実績 <機械・設備システム>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 △80億円の減少

売上 : 対前年同期 △ 5億円の減収

シーメンス社との事業統合により製鉄機械が増収となった一方、前年同期に在外グループ会社決算期変更があった影響により、前年同期を下回った。

損益 : 対前年同期 △58億円の減益

前年同期に在外グループ会社決算期変更があった影響により、前年同期を下回った。

年間見直し
変更なし

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位:億円)

	'14-1Q	'15-1Q	'15年度 見通し
研究開発費	264	264	1,500
減価償却費	350	371	1,700
設備投資	415	276	1,800

2. 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

	'14-1Q	'15-1Q
販管費	1,318	1,330

3. 為替レート

	'14-1Q	'15-1Q
USドル(円/USドル)	102.0	120.2
ユーロ(円/ユーロ)	140.5	132.1

4. 海外地域別売上高

(単位:億円)

	'14-1Q		'15-1Q	
アジア	1,781	(21%)	1,731	(19%)
北米	1,611	(19%)	2,046	(21%)
欧州	993	(11%)	959	(10%)
中南米	233	(3%)	327	(4%)
中東	294	(3%)	262	(3%)
アフリカ	239	(3%)	252	(3%)
大洋州	120	(1%)	60	(1%)
合計	5,274	(61%)	5,640	(61%)

5. 所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		'14-1Q		'15-1Q	
日本	売上高	6,153		6,763	
	営業損益	421		495	
北米	売上高	1,052		1,324	
	営業損益	17		28	
アジア	売上高	1,334		1,043	
	営業損益	100		78	
欧州	売上高	1,041		843	
	営業損益	17		△ 19	
その他	売上高	119		261	
	営業損益	3		5	
消去または共通	売上高	△ 1,103		△ 921	
	営業損益	—		—	
合計	売上高	8,597		9,314	
	営業損益	560		588	



この星に、たしかな未来を

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.